



## 地球のかおり

何はなくとも空気はおいしい。春まだ浅いスロバキアの首都ブラチスラバ。早朝の薄暗がりの中、山の雪景色を眺めていると、だんだん明るくなり、この木に出合った。山との遠近感が面白い。寂しい光景だが寂しさを感じない。と、2羽の鳥が枝にとまった。絵を描くなら、あの枝あたりだろうと思っただけ、まさにそのポイントに。テレパシーが通じたのだろうか。突然、朝日の輝きも光を増した。不思議な瞬間だった。

（夢絵作家 久楽迎古）

スロバキアの朝

